

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392400129		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム乙川 1丁目		
所在地	愛知県半田市飯森町53-1		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400129-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400129-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年12月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平屋建てであり、リビングを南側に集中させ、広々としたリビングがあり、暖かい日差しが入る中、日中過ごして頂ける。開所して以来、食事3食を施設内で作り提供しており、嚥下機能の衰えた方にはペースト・刻み・ムースなどで対応している。近所に公園・喫茶店などがあり最適な散歩コースとなっている。出来る力を大事にし、お盆拭き・洗濯たみ・おしぼり作り等日々の生活に役割を持って頂けるようにしている。月に一度の行事は季節感を大事にし、少しでも楽しんで頂けるように取り組んでいる。隣が医療機関のため、体調に変化があった場合はすぐに受診することが出来る。また当法人の接骨院が隣にあるため、リハビリや希望のある方は受けれるようになっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営母体が医療機関でもあることで、医療面での連携が柔軟に行われていることがホームの特徴でもある。医療面に関する支援については、ホーム母体の医療機関の他にも、ホームに隣接して開設されている医療機関による支援も行われており、利用者の健康状態に合わせた定期的及び随時の支援が行われている。利用者の中には身体状態の重い方もホームで生活を継続しており、利用者が住み慣れたホームで生活しながら、看取り支援を含めた対応が行われている。日常生活については、ホームのユニット間を開放していることで、日常生活の中で圧迫感を感じないような支援が行われている。日常的にレクリエーションに参加している方や静かに過ごしている方等、一人ひとりが自由に過ごしている。また、運営法人で職員研修が行われており、職員の資質向上につながる取り組みも行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の申し送り時に声に出し確認し復唱している。業務内で行える様に心がけている。	運営法人の基本理念及びホーム独自の理念を掲げている。理念については、日常的に職員間で唱和が行われており、理念を共有と実践につなげている。また、職員で目標をつくる取り組みが行われており、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者が行っている。外出等地域の店などを利用することで顔なじみになっている。ボランティアの方との交流はあるが現在は行っていない。	ホームから地域の活動に参加する機会は限られているが、ホームの隣に接骨院が開設されたことで、新たな交流の機会にもつながっている。また、ホームで職場体験の受け入れが行われており、地域貢献につなげている。	ホームが立地している地域性もあり、ホームから地域の活動に参加する機会が得られていない状況が続いている。地域の方とのホームの継続的な交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者が2か月に一回開催している。	会議の際には、多くの家族の参加が得られており、家族との定期的な交流の機会にもつながっている。また、会議については休日に開催されているが、市職員の出席が得られており、情報交換等が行われている。	会議に地域の方の参加が得られていない状況でもあるため、ホームからの継続的な参加への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が行っている。	市担当部署とは、運営推進会議の他にも毎月のホームの運営状況の報告が行われており、定期的及び随時の情報交換が行われている。また、地域包括支援センターとも情報交換の機会をつくるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	判断が難しい時は管理者に指示をもらっている。玄関は施錠している。拘束となる行為は意識をしてしないようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内については利用者が自由な場所で過ごすことができるように支援が行われている。また、運営法人を通じた職員研修を実施しており、職員の振り返りの機会にもつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時に身体の確認を行っている。異常が見られて時は管理者に報告している。内出血などあれば報告・申し送りして共有している。個人で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が行っている。学ぶ機会はありませんが法人の研修がある。現に利用されている方はいない。今後学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族と日常生活で常に話しやすい環境づくりに心がけている。定期的に行っており、面会の際話すこともある。意見・要望をお聞きし管理者から職員へ報告してもらっている。	ホームの行事を通じた家族との交流の機会をつくるように取り組んでおり、交流の機会をつくっている。家族からの要望等にはホーム管理者の他にも、運営法人でも対応する体制がつけられている。また、利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで情報を共有している。年に2回面談があり聞き取りがある。その他随時聞いてくれる。	ホームでは日常的にユニット間で交流が行われていることで、職員間の情報交換も日常的に行われており、ホームの運営への反映にもつながっている。また、管理者による職員面談も行われており、職員の把握につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務・公休の希望は相談にのってもらっている。年に2回面談がある。外部評価にて評価してもらい次につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	分からない時は分かるように教えてくれる。法人研修など受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人研修で他の事業所と職員と交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	会話の中で聞いた事を、管理者も含め寄り添うケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	要望が言える環境づくりに努め少しでも安心して頂けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	会話する中で必要としていることを知る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様にあった支援を心がけている。出来るところは出来るだけご自分で行ってもらうように支援している。第2の家に近づけるように努力している。意識していないが「同士」とは考えていなかった。対等でなければいけないと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来所時には近況を報告している。利用者様が楽しく過ごせる場所を作るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来所されやすい環境づくりを心がけている。	利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を目的に遠方への外出が行われており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出として、ホーム近隣の喫茶店に出かけたり、自宅に戻る等、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士で座って頂き変化があれば、間に入り支援している。レクリエーションを取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	少しでもホッとする時間がもてるように努力している。普段の様子を観察し本人本位の暮らしに近づけるようにしている。	日常的に職員間で情報交換を行っていることで、利用者に関する気付き等を職員間で共有し、日常の支援に反映する取り組みが行われている。また、毎月の職員会議を通じた情報交換も行っており、利用者に関する意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントに目を通すように心がけている。管理者が行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化があれば管理者に報告・相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	変化があった時は記録に記入している。良いと思ったことは試してみる。できる限り現況に即したプランにしているが、状況に合わせて変更の検討もしていく。	ライフサポートプランの様式を活用しながら、見直しの時期を6か月に変更しており、利用者の変化に合わせた見直しに取り組んでいる。また、日常的にも介護計画に関するチェックを残しながら、3か月でのモニタリングにつなげている。	介護計画に関する番号を転記しながら記録を残しているが、具体的な内容を記録に残す等、記録の内容を充実する取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行っている。気になる事があればミーティングで取り上げケアにつなげている。気づきは申し送りで情報収集している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調に合わせた対応を行っている。出張美容に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	管理者が行っている。ボランティアの受け入れをしている。地域資源を活用できていない方が多いと思う。活用できる方法を検討していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週訪問診療がある。訪問看護も週に一回訪問している。必要に応じ受診している。	運営母体でもある医療機関からの支援が行われているが、ホームに隣接して開設されている医療機関とも柔軟な連携が行われている。また、運営法人の関連事業所の訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	身体の様子などを日誌に記入し報告している。緊急時に対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている。退院後は注意点などを聞き対応している。法人内でも入院できる病院がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者が行っている。接し方や看取りなどは職員間でも話し合い対応している。意向を事前に確認している。	ホームでの看取り支援にも対応しており、ホームに隣接する医療機関との連携を深めながら支援が行われている。職員間での連携にも取り組みながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もあり、利用者及び家族の意向に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時はマニュアルに沿っている。救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を行い、反省点・注意点を振り返っている。マニュアルがある。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。訓練の際には消防署職員の立ち合いも得られており、助言等にもつながっている。また、ホーム内の備蓄品の確保が行われている。	ホーム近隣にある運営法人の関連事業所との連携が充分に行われていない現状がある。非常災害時に備えた、近隣の関連事業所との連携を深める取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの反応に合わせた言葉遣いに心がけている。コミュニケーションをとり、個人に合わせた対応をしている。	運営法人の基本理念には、職員による利用者への対応の基本指針が掲げられており、日常的に職員間で唱和を行いながら、意識向上にもつなげている。また、職員の接遇に関する研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様と話し合いながら行っている。表現や難しい方には表情や行動で早めに気付くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日をゆったりと過ごして頂けるように支援している。忙しい時、職員側の都合になってしまっていると感じることがある。希望に沿えるように努めていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	体温調整に気を付けている。昼夜のメリハリをつけている。利用者様の思いを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をし、会話を楽しみ利用者様のペースで召し上がることが出来るように声掛けをしている。	食材からの調理の他にもチルド類の活用も行いながら調理が行われている。利用者も買い物や片付け等のできることに参加している。身体状態にも合わせながら、ムース食等の食事形態の提供も行われている。また、行事食等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量のチェックは毎日行っている。食べやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自分で出来ることは見守り口腔ケアをチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄版を参考にし、時間帯を見ながらトイレに誘導している。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせて排泄支援に取り組んでいる。利用者の中には排泄状態が改善した方もいる。また、協力医や訪問看護を通じた排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方は薬で調整したり、朝牛乳をお出ししている。排便チェック表を付け管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個浴と機械浴に分けて入浴して頂いている。入浴剤を使用している。こちらの都合で時間帯を決めてしまっている。	ホームでは毎日の入浴の準備が行われており、利用者は1日おきの週3回の入浴が行われている。ホーム内に特殊浴槽が設置されており、身体状態が重い方にも対応している。また、入浴剤を活用する等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の希望に寄り添いゆっくり休める環境づくりを心がけている。自由にお昼寝など休みたいときに自室で休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	名前と日付の確認を2人体制で行っている。管理者が行っている。薬剤情報を見るように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度の行事やカラオケなどで楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所に散歩に行ったり喫茶店へ外出している。戸外に出掛けるのは、ご家族が面会の際にご家族の希望で行かれる方が数名あるのみ。	ホームの近隣に遊歩道があることで、利用者が散歩をしながら季節を感じることができるような支援が行われている。ホームでは年間を通じて様々な場所への外出行事が行われている。また、利用者の希望等に合わせて近隣の喫茶店への外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理者が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	名簿を作成いつでも連絡できるようにしている。ご自分で携帯電話を持っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の場が常に清潔であるように配慮している。塗り絵・貼り絵・習字・写真等季節ごとに作品を作り壁に貼っている。室温は利用者様に伺い調整している。	ホーム内は広くゆったりとした空間が確保されている他にも、日常的にユニット間を開放していることで、利用者が毎日の生活で好きな場所で過ごすことができる生活環境となっている。また、利用者の作品やホームでの様子を写した写真の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士で座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具の配置は利用者様が使いやすいように工夫している。使い慣れたものや写真をお好きなように飾って頂いている。施設でプレゼントした色紙や飾りも飾っている。	居室には、使い慣れた家具類や好みの物の持ち込みが行われている居室の方や持ち込みの少ないシンプルな雰囲気の居室の方もいる。また、利用者の中には特技を活かした自身の作品の掲示が行われており、その人らしい居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室のドアに名前と写真を提示している。トイレマークを付けている。転倒の危険性はないように家具の配置を考えている。		